

令和2年度

第1回 指定管理者選定評価委員会

令和2年7月29日

千葉市教育委員会

## 令和2年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会議事録

### 1 日時：

令和2年7月29日（水） 18時00分～20時53分

### 2 場所：

千葉市教育委員会事務局 教育委員会室  
（千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー12階）

### 3 出席者：

#### （1）委員

近藤葉子委員（会長）、中原秀登委員（副会長）、岡村健司委員、中野智輔委員、  
宮野モモ子委員

#### （2）事務局

教育総務部

松浦部長

生涯学習部

佐々木部長

総務課

山口課長、金井総務班主査、安藤主任主事、佐野主事  
生涯学習振興課

中島課長、八斗統括管理主事、土肥課長補佐、柴崎主査、佐宗管理主事、石井  
主任主事、寺村主任主事

### 4 議題：

#### （1）会長及び副会長の選任について

#### （2）千葉市生涯学習センターにおける指定管理者の指定管理に係る年度評価及び総合評価について

#### （3）次の各施設の指定管理者の施設管理に係る年度評価について

ア 千葉市科学館について

イ 千葉市公民館について

### 5 議事の概要：

#### （1）会長及び副会長の選任について

千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例（平成22年千葉市条例第7号）第9条第2項の規定により、委員の互選により、近藤委員を会長に、  
中原委員を副会長に、それぞれ選任した。

#### （2）千葉市生涯学習センターにおける指定管理者の指定管理に係る年度評価及び総合評価について

千葉市生涯学習センターの指定管理者の施設管理に係る年度評価及び総合評価

について、それぞれ事務局から説明があり、審議。後日、審議の内容を基に事務局が答申案をまとめ、各委員の意見を聴取した上で、会長の承認を経て本委員会の答申とすることとした。

(3) 指定管理者の施設管理に係る年度評価について

千葉市科学館及び千葉市公民館の指定管理者の施設管理に係る年度評価について、それぞれ事務局から説明があり、審議。後日、審議の内容を基に事務局が答申案をまとめ、各委員の意見を聴取した上で、会長の承認を経て本委員会の答申とすることとした。

## 6 会議経過：

○金井総務課主査 それでは、定刻になりました。会議の開会に先立ちまして、傍聴人の方をお願いいたします。

入室の際にお配りしております傍聴の注意事項をお守りいただき傍聴されますようお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、マスクの着用や咳エチケットについてご協力くださるよう、併せてお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより令和2年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます教育委員会教育総務部総務課総務班主査の金井と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

本日は全委員のご出席がございましたので、会議は成立しております。また、千葉市情報公開条例、こちらは机上に配布させていただきました資料1-2の最終面がございます、第25条の規定に基づきまして、会議は公開となりますので、併せてご報告させていただきます。

それでは、開会に当たりまして、教育総務部長の松浦からご挨拶を申し上げます。

○松浦教育総務部長 皆様、こんばんは。教育総務部長の松浦でございます。

委員の皆様方におかれましては、本日は大変お忙しい中、千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

本市では、指定管理者の選定過程の一層の公平性や透明性を図るため、平成22年3月に千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例を定めまして、財務や法務の専門家や学識経験者の皆様によって構成されますこの委員会を設置いたしました。

昨年度は、指定管理者の行いました施設管理について適正な評価をしていただくとともに、有用なご意見、ご提案をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

本日は、生涯学習センターの指定管理者が行いました施設管理に係る年度評価と総合評価並びに科学館及び公民館の年度評価をお願いするものでございます。

委員の皆様方におかれましては、大変お手数をおかけしますが、今年度も豊富な

ご経験と高いご見識によりご審議をいただきますようお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

○金井総務課主査 続きまして、委員の皆様の紹介に入らせていただきます。

それでは、皆様、お手元にごございます委員名簿をご覧ください。名簿の順にご紹介させていただきます。

最初に、公認会計士でいらっしゃいます岡村健司委員でございます。

○岡村委員 岡村でございます。よろしくお願いたします。

○金井総務課主査 次に、元社会教育委員の近藤葉子委員でございます。

○近藤委員 近藤でございます。よろしくお願いたします。

○金井総務課主査 次に、弁護士でいらっしゃいます中野智輔委員でございます。

○中野委員 中野と申します。よろしくお願いたします。

○金井総務課主査 次に、千葉大学法政経学部教授でいらっしゃいます中原秀登委員でございます。

○中原委員 中原です。よろしくお願いたします。

○金井総務課主査 最後に、元放送大学千葉学習センター長の宮野モモ子委員でございます。

○宮野委員 宮野でございます。よろしくお願いたします。

○金井総務課主査 それでは、議事に入ります前に、お手元の次第に記載しております一覧により資料のご確認をお願いいたします。不足等ございましたら、お気づきになったときで構いませんので、事務局までお知らせください。

それでは、会議を開催させていただきます。

なお、会長が決定するまでの間、教育総務部長が仮議長を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○金井総務課主査 ありがとうございます。

それでは、松浦教育総務部長、議事進行をお願いいたします。

○仮議長 それでは、ご承認いただきましたので、仮議長として会議の進行を務めさせていただきます。

それでは、議題に入らせていただきます。

まず、議題（１）会長及び副会長の選任を行いたいと存じます。

会長の役割といたしましては、本委員会の議長を務めていただくほか、会議の招集など、会を代表していただきます。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理していただく役割でございます。

なお、会長及び副会長の役職の任期は各年度末までとされております。

配布してございます資料１－１「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」の資料を１枚おめぐりいただきまして、３ページの上から３分の１ほどのところに会長及び副会長についての記載がございます。第９条第２項をご覧ください。会長及び副会長は委員の皆様の互選により定めるとなっておりますが、どなたか立候補、または推薦などされる方はいらっしゃいますでしょうか。

○中原委員 よろしいですか。

○仮議長 お願いいたします。

○中原委員 私は、やはり近藤委員が会長をされていまして、近藤委員にお願いできたらと思います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長 ただいま、会長には近藤委員を推薦するというご意見をいただきました。副会長についてはいかがでございましょうか。

〔発言する者なし〕

○仮議長 会長が推薦されるということでよろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様からご賛同をいただきましたが、近藤委員に会長を務めていただくということでよろしゅうございますか。

○近藤委員 はい。

○仮議長 それでは、会長につきましては近藤委員に決定させていただきます。よろしくお願いいたします。

続きまして、副会長を近藤会長から推薦していただきたいと存じます。

近藤会長、お願いいたします。

○近藤委員 それでは、副会長には、長年やっただいております中原委員にお願いしてはと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長 中原委員、よろしゅうございますか。

○中原委員 はい。

○仮議長 ありがとうございます。

それでは、副会長は中原委員に決定させていただきます。

それでは、ここで会長、副会長が選出されましたので、今年度ご審議をいただく案件等について会長へ諮問をさせていただきます。

〔諮問書手交〕

○仮議長 それでは、これまで仮議長を務めて参りましたが、ここで議長を近藤会長と交代したいと存じます。

近藤会長、よろしくお願いいたします。

○近藤会長 それでは、次に議事に入ります前に、本日の流れについて、事務局からご説明をお願いいたします。

○山口総務課長 総務課長の山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議事の流れにつきましてご説明させていただきます。

本日は、議題にございますとおり、千葉市生涯学習センターの年度評価及び総合評価並びに千葉市科学館及び千葉市公民館の年度評価をお願いいたします。

年度評価は、今後の指定管理運営をより適正に行うため、各年度の終了後、市が履行を確認し、それを選定評価委員会に報告するとともに、ご意見を伺うものがございます。

総合評価につきましては、指定管理の最終年度におきまして現指定者の管理業務を総括し、制度導入の効果、課題や問題点、サービス向上に向けた取組みなどを、その後の施設の管理運営の在り方に係る検討や次期指定管理者の選定等に活用するものでございます。

初めに、議題（２）「千葉市生涯学習センターの指定管理に係る年度評価及び総合評価について」ですが、まず、施設所管課であります生涯学習振興課から、施設の評価に係る資料についてご説明をさせていただきます。次に、委員の皆様から説明内容についてのご質問や、管理運営状況や財務状況の確認、サービス向上や業務効率化の方策などにつきましてご意見等を伺いたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

同様の流れによりまして、議題（３）ア「千葉市科学館」及びイ「千葉市公民館」の年度評価につきましても、所管課の生涯学習振興課からのご説明の後にご意見をお願いしたいと考えております。

最終的に、いただきましたご意見を取りまとめ、選定評価委員会として教育委員会に対し答申していただくこととなります。

本日の議事の流れにつきましては、ただいまの説明になりますが、本日は新型コロナウイルス感染防止の観点から、施設ごとのご審議をいただいた後に、換気等の意味も含めまして10分程度の休憩を挟ませていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

説明は以上になります。

○近藤会長　それでは、次第に従いまして議事を進行して参ります。

議題（２）「千葉市生涯学習センターにおける指定管理者の施設管理に係る年度評価及び総合評価について」に関し、事務局から説明をお願いいたします。

○佐々木生涯学習部長　生涯学習部長の佐々木でございます。

千葉市生涯学習センターの令和元年度事業の評価と、本年度が指定期間の最終年度に当たりますことから、平成28年度からの総合評価の概要につきまして説明させていただきます。令和元年度指定管理者年度評価シートに沿って説明をさせていただきます。

1、「公の施設の基本情報」についてですが、施設名称は「千葉市生涯学習センター」、条例上の設置目的、ビジョン、ミッション、制度導入により見込まれる効果については記載のとおりでございます。成果指標①「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」は、数値目標として延べ受講者数3万5,000人を設定しております。成果指標②「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」の数値目標は、ボランティア活動をしたい人と求めている人を結びつけるボランティアコーディネート件数、260件と設定しております。成果指標③「学びを『支える』環境づくりを進める」の数値目標は、施設利用率55%を設定しており、この施設利用率は、具体的には1日のうち使用時間区分が4区分ある部屋で1区分の利用があった場合、25%と判定しております。

続きまして、2、「指定管理者の基本情報」についてですが、指定管理者名は公益財団法人千葉市教育振興財団、指定期間は平成28年4月1日から令和3年3月

31日までとなっております。選定方法は非公募であり、その理由につきましては記載のとおりでございます。管理運営費の財源につきましては、指定管理料及び利用料金収入となっております。

3、「管理運営の成果・実績」の（1）成果指標に係る数値目標の達成状況についてですが、1つ目の成果指標「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」は、講座やイベント等の実施回数の増加により、令和元年度は延べ3万2,276人が受講し、達成率は92.2%となっております。2つ目の成果指標「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」は、ボランティアコーディネート件数が昨年度を28件上回る262件となり、達成率は100.8%となっております。3つ目の成果指標「学びを『支える』環境づくりを進める」は、施設利用料金の柔軟な設定や利用者アンケートの反映などにより施設利用率は60.3%となり、達成率は109.6%となっております。

4、「収支状況」の（1）必須業務収支状況についてですが、収入は合計の実績で5億9,593万円、計画比498万8,000円の減となっております。主な原因は施設利用者の減によるものです。次に、支出は表の合計の実績で5億6,843万7,000円、計画比3,248万1,000円の減となっております。主な要因は、当該財団の公民館指定管理事業受託に伴い、間接費が計画比で2,129万6,000円の減となったことによるものです。

（2）自主事業収支状況についてですが、収入の合計は133万1,000円で、前年度比128万8,000円の減となっております。主な要因は、テナントで入居しているドトールコーヒー及び自動販売機の光熱水費の立替金分を令和元年度から記載しないこととしたためです。また、支出は294万8,000円で、事務費の減により前年度比16万1,000円の減となっております。主な要因は、自主事業の減により講座等による会議室等使用料が減少したことによるものです。

（3）収支状況についてですが、必須業務と自主事業を合わせた収支は2,587万6,000円の黒字となっております。

次に、5、「管理運営状況の評価」の（1）管理運営による成果・実績についてですが、令和元年度実績について評価を行っております。

（2）市の施設管理経費縮減への寄与についてですが、指定管理料支出が選定時の提案額から0.77%の削減でしたので、市の評価はCとなっております。

次に、（3）管理運営の履行状況についてですが、選定時の審査項目を評価項目として、指定管理者と市がAからEの5段階でそれぞれ評価を行っております。評価の考えについてですが、まず自己評価については、点線の囲みに記載の考え方に基づき実施をしております。

一方、市の評価につきましては、令和元年度指定管理者モニタリングレポートに記載をされております基準のところに、プラス評価と確認結果がございます。これに基づきまして各モニタリング項目の点数を算出します。その上で、平均値の算出として評価項目ごとにモニタリング項目の点数の平均値を算出し、AからEの評価をしております。

指定管理者年度評価シート補足資料をご覧ください。モニタリング項目ごとに

算出した点数から年度評価をする説明資料として作成をいたしました。モニタリング項目ごとに算出した点数の平均値を、評価の目安（年度評価シート）、これに当てはめて評価をしているところがございます。

評価Cが、概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていたと評価するものであり、それを上回るBの評価をした箇所を中心に説明をさせていただきます。

3、「施設の効用の発揮」の（1）幅広い施設利用の確保については、特記事項にありますとおり、休館日を条例上の毎週月曜日から、毎月第4月曜日のみとしていること、利用料金設定の柔軟な設定や、フェイスブックなどSNSの活用による施設の周知などにより市民の施設利用につなげ、施設利用率が成果指標の55%を上回っていることから、市の評価はBといたしました。

また、（2）利用者サービスの充実については、提案時にはなかった無線LANによるパソコンへのインターネット接続環境を整え、利用者の利便性を向上させていることや、利用者意見聴取・自己モニタリングとして、管理運営の基準には示していない第三者評価も実施したことから、市の評価はBといたしました。

（3）施設における事業の実施については、現代的課題に関する講座を増やしたこと、小学生を対象にプログラミング教育必修化に合わせた講座を新たに実施したこと、自主事業を積極的に実施することで市民の幅広い学習ニーズに対応したことから、市の評価はBといたしました。

（4）教育委員会事務局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応についてですが、1つ目の「ボランティアのコーディネート件数については、引き続きモニタリングをしながら目標値に向けて努力すること」との平成30年度意見への対応といたしまして、学校や公民館等を直接訪問し事業説明をするなど、広報活動を実施いたしました。

2つ目の、「生涯学習の中核的施設として公民館と連携した事業の充実を図ること」とのご意見への対応として、センターで培った学習相談などのノウハウを積極的に提供したほか、公民館職員研修において実務に役立つ内容を積極的に研修に取り入れました。

6、「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、まず、ア、受講者アンケートでは7,876件の回答があり、いずれの講座においても満足が71%、やや満足が25.9%、合計で96%を超える高い満足度を示しております。

次に、イ、貸出施設利用者を対象とした利用者アンケートにつきましては1,915件の回答があり、とてもよいが66.7%、よいが28.9%と、95%を超える方に高い評価をいただいております。主な意見といたしましては、「設備がきれいで職員の対応が丁寧である」といった内容となっております。

次に、ウ、インターネットアンケートにつきましては7件の回答がございました。受講者アンケートや利用者アンケートを実施していることから、回答が少ない状況となっております。

（2）市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応についてですが、「膝が悪いので和室に机と椅子が欲しい」という意見に対しましては、机と椅子を設置



しました。今後とも快適な環境でご利用いただけるよう、業務改善に努めて参ります。

最後に、7、「総括」をご覧ください。(1) 指定管理者による自己評価についてですが、各種講座・事業を実施し、多種多様な生涯学習活動を推進したほか、施設の積極的なPRや設備改善により施設利用率が成果指標を上回ったこと、利用者アンケートの高い評価などにより、Bとなっております。

(2) 市による評価についてですが、まず評価の考え方は、年度評価シートの管理運営状況の評価の(1)から(3)における評価項目において、評価Bの欄の目安、すなわち評価項目の20%以上がAまたはB、かつ評価項目にDまたはEがないことから、市の評価はBといたしました。

(2) 市による評価の所見ですが、市民の幅広い学習ニーズに対応した講座を実施したことや、施設設備の充実、利用方法の改善などにより、ボランティアコーディネート件数と施設利用率の2項目で成果指標の数値目標を達成したこと、その他、建築物・建築設備等の保守点検や修繕などについて適切に対応するとともに、自主事業も積極的に行われたことにより、優れた管理運営が行われたことなどがございます。

令和元年度指定管理者年度評価シートにつきましての説明は、以上でございます。

続きまして、指定管理者総合評価について説明をさせていただきます。こちらは平成28年4月からのトータルの総合評価でございます。

1、「基本情報」につきましては、先ほどご説明したのと同様でございますので、省略させていただきます。

続きまして、2、「成果指標等の推移」についてですが、成果指標ごとに平成28年度から令和元年度までの4年間の推移と、その累計値をまとめてあります。1つ目の成果指標(1)「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」は、4年間の実績値の合計が延べ受講者数14万5,246人で、達成率は103.7%となっております。2つ目の成果指標(2)「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」は、4年間の実績値の合計がボランティアコーディネート件数948人で、達成率は91.2%となっております。3つ目の成果指標(3)「学びを『支える』環境づくりを進める」は、4年間の実績値の平均が施設利用率61.5%で、達成率は111.9%となっております。最後に、成果指標ではありませんが、参考までに(4)成果指標以外の利用状況を示す指標の施設利用者数は、4年間の実績値の合計で80万7,325人ございました。

3、「収支状況の推移」についてですが、必須業務では、実績額で指定管理料2億2,242万8,000円を含めた4年間の収入合計23億9,108万6,000円に対し、支出が23億1,743万1,000円で、収支が7,365万5,000円の黒字となりました。また、自主事業では実績額で4年間の収入合計825万2,000円に対し、支出が1,163万円で、収支が337万8,000円の赤字となりました。これら必須業務と自主事業を合わせた総収支は7,027万7,000円の黒字となっております。

4、「管理運営状況の総合評価」についてですが、評価の考え方は、評価対象期

間における当該評価項目の年度評価の半数以上がAまたはB、かつ評価対象期間における当該評価項目の年度評価にDまたはEがなかった項目は評価をBとし、評価対象期間における当該評価項目の年度評価のDが25%以下、かつ評価対象期間における当該評価項目の年度評価にEがなかった項目は評価をCといたしております。この考え方に照らし、評価対象期間における年度評価の総括評価の半数以上がAまたはBかつ評価対象期間における年度評価の総括評価にDまたはEがなかったため、評価をBとしております。

5、「総合評価を踏まえた検討について」ですが、成果指標を超える実績・成果が認められ、管理運営も良好に行われており、受講者及び利用者の満足度が高いことなどから、当初の見込みを上回る効果が達成できたと考えておりますので、次年度も引き続き指定管理者制度を継続する方向で検討を進めて参ります。

生涯学習センターにつきましては以上でございます。

○近藤会長　それでは、まず指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況について、公認会計士でいらっしゃいます岡村委員のご意見をお聞きしたいと思っておりますので、岡村委員、よろしくお願ひいたします。

○岡村委員　はい、分かりました。

初めに、考えを述べるに当たり、監査をしたわけではなく、決算書を見た限りであることを最初に申し述べます。また、決算書はあくまで本年3月31日までの状況であること、及び提出された決算書が正しく、また記載すべき内容に漏れがないということをお話ししたいと思います。

特に、事業が継続するかどうかということについて、コロナウイルスが与える影響が各組織にどのような影響をどの程度、また、いつ及ぼすかということが極めて重要と考えております。事業会社では、コロナによる次年度以降の事業継続に与える影響があり、かつ影響が重要な場合には、財務諸表に決算書作成時点で判明している影響や対策などを記載することになっております。

特に、翌1年度の事業の継続性について疑義がある場合には、決算書の注記表の最初に、「継続性の前提」というタイトルを付けて詳細に記載します。また、継続性の疑義とまではいかなくとも、翌年度の財務内容への重要な影響が考えられるような場合には、「後発事象」というタイトルを付け、注記表の最後の方に記載をします。後ほど述べますが、今回は1つの組織にはコロナについての記載がありましたが、ほかに記載は一切ございませんでした、ということをお初めに申し上げます。

千葉市教育振興財団の令和元年度の決算報告書、こちらは大変きちんとした資料を提出していただいておりますが、拝見した限り、コロナに関しての記載はございませんし、継続企業の前提と後発事象の記載もありません。ですので、決算書類確定段階では事業継続などについて重要な影響はなかったといえます。

それと監事さんの5月22日付けの監査報告書を読みますと、内容は適正であって、かつ適法でしたという意見が添えられておりますので、まず間違いはないというところだと思っております。

正味財産が4億5,300万円のプラスです。自己資本の比率、自分のお金、自分が自由にできる金額の比率は49.5%であります。それから、細かいことは言

いませんが、流動資産、すぐ支払いに使えるお金が、流動負債、1年間以内に払わなければならないお金を上回っていることから、財務体質は良好といえます。

それから、正味財産増減計算書でございまして、先ほどの純財産、自組織の持分ですが、どういう理由で増えたか減ったかという中身を示しております。なおかつ、毎年あるような経常的な理由なのか、特別な理由なのかと分けて記載することになっております。まず、当期経常増減額ですが、これは4,600万円の黒字です。当期一般消費財産増減額、これは特別な理由による増減を加えたものですが、これも加えた状況でも4,600万円の正味財産が増えていますので、この事業体の規模あるいは目的からしまして、大変堅調といえます。

したがいまして、詳細な注記事項、附属明細書、財産目録の項目の内容を見ましても、特段問題はないものと考えます。

以上でございます。

○近藤会長 ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の皆様から何かご質問はございますか。

特にないようですので、続きまして、先ほどの事務局からの説明内容への質問や、指定管理の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。どなたか。

○中原委員 1つ質問ですが、評価についてです。自己評価と市の評価がありますが、市の評価基準はお持ちでしょうか、自己評価での相手方はその評価基準を知っているのでしょうか。というのも、自己評価と市の評価でB、Cと、分かれる評価が多少見られますので、その辺の事情はどうなっているのでしょうか。

○中島生涯学習振興課長 生涯学習振興課長の中島でございます。よろしくお願いたします。

指定管理者でございます教育振興財団も状況というのは知っておりまして、今回、評価シートの自己評価と市の評価が異なる場所ですね、自己評価がBで市の評価がCとなっているところにつきましても、特記事項でその旨を少し書かせていただいているところでございます。

○中原委員 特にモニタリングの評価項目では、評価基準の客観的な数字が出ていますので、その基準に基づいて、ある程度客観的に市がC評価をつけても理解できますが、自己評価でB評価をつけるのは確かに何かちょっと釈然としないものがありましたから。目安を上回ると、誤りじゃないのでしょうか。

○中島生涯学習振興課長 はい。

○中原委員 はい、分かりました。

○近藤会長 ほかにはございますか。

○岡村委員 質問をちょっと、教えてほしいところがございまして、達成率92.

2%というのがございますね、これについて、先ほどコロナの影響とどこかでご説明がございましたが、その数字ですね、コロナの影響が、多分3月以降だと思っておりますが、来場者がどれぐらい減ったというのは出ていましたか。

○中島生涯学習振興課長 3月3日から休館をさせていただいております。今、岡村委員からございましたコロナの影響ですが、主催の講座で言いますと、中止の

講座が37講座、回数で言いますと72回となっております。影響される人数というのが約3,000人の減ということでございますので、通常3月まで開館すると3万5,000人を超えるというところでございます。

- 岡村委員　それから、間接費2,000万円の減について、もう一回説明していただけないか。3,600万円の計画が1,500万円になったんですね。半分以下ですので、理由を教えてください。
- 中島生涯学習振興課長　間接費の約2,100万円の減のところでございますが、この理由としましては、教育振興財団が平成30年度から公民館の指定管理事業を受託いたしました。財団の中での間接費の配賦割合というのが変更となっております。この計画のときにはこの変更を盛り込んでいなかったために、このマイナスで2,100万円という数字が出てきたところでございます。
- 岡村委員　前にも申し上げたのですが、ここの評価に関係ない数字ということですよ。それで2,000万円の影響が出るというのは、評価としては数字を使えないと思います。もし、あっちが何もやりませんでしたということになったら、がんと費用がかかるわけじゃないですか。だから、よかったですねとは正直言えません。ほかのところを見ますときちんとやっていらっしゃるので、大丈夫だと気持ち的には思っていますが、さすがに半分以下になったのが、単なる配賦計算、しかもこの事業と関係ないところですね、会計的にこれはないとは正直思っています。だから、評価するのであれば、計画のときにはなかったことがあったからこうだということであれば、計画自体を変えるべきだと思います。これで評価が決まる一つの要因でもあるから申し上げるのですが。  
それから、(3)施設における事業の実施がございますよね。今ご説明いただいて、私が聞き漏らしたのかもしれませんが、特記事項、現代的課題学習に関する講座を74講座実施しましたということで、計画では83講座でした。これでなぜBになるのかということなのですが、コロナがなければ達したということですか。
- 中島生涯学習振興課長　そうですね、計画では83講座で、実際には74講座の実施ということですが、今おっしゃられましたとおり、コロナがなければここまで伸びていたということです。
- 岡村委員　そうやって書いてほしいです。
- 中島生涯学習振興課長　かしこまりました。
- 岡村委員　それから、総括のところも、コロナの影響により下回ったと、そのように大体の人数を入れてくれば違いますから。
- 中島生涯学習振興課長　分かりました。
- 岡村委員　もちろん休む、コロナだからといって施設を使わせないということがよいか悪いは別の議論だと思いますが、そのときは仕方がなかったのだと思います。  
資料を見ておりますと、④の資料の83ページなんですけれども、82ページもそうですが、施設利用料金収入がマイナスになっていますよね。これはどういうことですか。
- 中島生涯学習振興課長　マイナスになっておりますのは、施設の利用料金を事前に入れていただいて、施設がお休みになったときに、使わなかったということでお

返しをさせていただいたものでございます。

○岡村委員　きれいに精算が済んでいるということですね。

○中島生涯学習振興課長　はい。

○岡村委員　以上でございます。よく理解できました。ありがとうございます。

○近藤会長　ほかに何か。

○宮野委員　事業内容について、私なりにいいなと感じたところですが、講座の棲み分けがとてもきれいにできていたと思いました。特に、アカデミックな講座、公開講座ですとか、それから学習的な性格の強いアカデミー千葉ですね、これらの仕分けが、大学だからといって公開講座の中に一緒くたに入れるのではなく、このように分けて、それぞれの目的を達成しようとしているところが良いと思いました。生涯学習アカデミー千葉の第5期なども4月から、これは3月もなされたのでしょうか、非常にいろいろな専門分野を散りばめていて、よいと思いました。それから、専門性、特色を生かした市内大学との公開講座というところがありますが、立正大学や東京情報大学の公開講座など、そういった私学との連携というところに持っていくことは、すごく良いことではないかと私は思いました。

それから、私として特に顕著に良いなと感じたのは、ボランティア活動が依頼も多いですし、それから、依頼が多いということはそれだけ外に向けてボランティアの人たちを育成し、そして出していったということだと思ひまして、すごくそこは良かったと思いました。後できっと公民館のことが出てくるのですが、公民館との繋がりができると、もっと良くなれないかと思っていた次第です。ただ、郷土に関する事業が半減した、少しそこが残念かと思ひました。それから、夏祭りについては活動ができなくなったのですか。これは非常に残念でした。当センターをPRするために有効なイベント等の開催、実施講座等一覧というところに夏祭りの開催とあるわけですが、応募者、応募人数それぞれ何も記載がなく、ということになりますが、これはなかったということでしょうか。

○中島生涯学習振興課長　生涯学習センターの夏祭りですが、実施をさせていただいております。ただ、人数のカウントができなかったもので、記載をしていないというところにして、実施はさせていただいております。センターの中で、ボランティアの方にも協力をして、行っているところでございます。

○宮野委員　ありがとうございます。

あとは、業務の効率化という点で、もうちょっと考えていただけると良いと思ったのが、学習情報誌として「千葉学びの森」がございませう。学びの森の配布回数などですね、これはそのまま良いのだろうかと思ひたわけです。まあ、それはコロナという感染の社会になった折に、紙媒体からネットへ移すのが良いのではないかとも思ひました。千葉学びの森は今までやっていたのを維持することにしても、ネットで見られるという、そこの充実度を増していったらよろしいと思ひています。というのは、ホームページアクセス数が大変よいというところから考えれば、そういうことを考えてもいいなと、前向きに積極的に行かれたほうがよいと思ひました。あとは、やはりこのコロナ社会における生涯教育施設の運営の密をどう乗り越えていくかというところのことが聞けたら良いなと思ひておりました。

それから、改善点ということになるのかどうか分かりませんが、複合施設の良さ、生涯学習センター、図書館、それから視聴覚センターですか、この三つ巴をお考えいただいているように思ったのですが、特に視聴覚センターでやっていることをもっと取り入れていくと、次年度、良くなるのではないなと思いました。視聴覚センターの使い方を積極的に考えられて、活動を出していただけたらと思います。

これは可能かどうか分かりませんが、ホームページには今、生涯学習センターのことについては載っているんですよ。市の放送には乗せるんでしょうか、千葉テレビとか。どんどん知らせていくという、生涯学習センターだけですがごく高い施設になるのではなくて、もっと市全体に対する広報をそういうところにかけるためにも、千葉テレビなどでもどんどん情報を配信してもらおうようにされたらよいかなど思っています。やはり何となく、コロナがありますと内向きの静かな活動にみんながなりがちですが、その中で情報を出していく、名前を出していく、こういう活動をやっています、いついつですという、何名ぐらいどうぞなど、そういうことができたらいいなと思いました。

- 近藤会長 1ついいですか。今の千葉学びの森の発行というところで、これはどういうところに対して発行されているのでしょうか。
- 中島生涯学習振興課長 冊子のようなものになりますので、皆さんの目に届くような公共施設を中心に配布をしているところでございます。
- 近藤会長 そこに置いておいて、皆さんが手に取ればいいなという形ということですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい。
- 近藤会長 その場合に、そこに置かせていただいて、それが手に取られなくて在庫として残ってしまったということもあるのでしょうか。もしそうだとしたら、とてももったいないと思います。
- 宮野委員 そうですね、放送大学の学習センターにも来ていましたね。
- 中島生涯学習振興課長 ありがとうございます。
- 近藤会長 飾ってあるだけということになると、かなり発行されているのに、今、印刷物などは金額が高くなっているじゃないですか。だから、それをどういうところに情報を発信しているのかという部分で、思ったのですが、以前に比べると学校の方たちが利用されることがとても多かったということを感じたので、各学校などにはお配りしていますか。
- 石井生涯学習振興課主任主事 先ほどの千葉学びの森、年3回発行しているのですが、それぞれにターゲットを絞って発行させていただいております。例えば、7月が一番、発行部数で桁数が一つ多いのですが、約8万部刷っています。これは主に夏休みの小・中学生を対象にターゲットを絞っておりますので、全校配布、児童・生徒に行き渡るように配布しています。それ以外の11月、3月についてはそれぞれのイベントなどの情報を載せておりますので、発行部数に違いがあり、それぞれにメリハリをつけて発行させていただいております。
- 近藤会長 どこに発行しているのかということに記載していただくと分かりやすいと思うので、改善し、報告していただくとありがたいと思います。

- 中島生涯学習振興課長 ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。今後より一層、生涯学習センターのホームページも昨年リニューアルしておりますので、そういったところも含めて検討していければと思っております。ありがとうございます。
- 近藤会長 中野委員、何かございますか。
- 中野委員 何点か。1つ目が、利用者等々の方からの意見にこういった対応をしましたという話があり、対応されていることはすごく良いと思うのですが、大体どのぐらいのスケジュール感でこういった対応をされているのかというところを、もし分かれば、教えてください。
- 石井生涯学習振興課主任主事 なるべく迅速にということ、すぐできるものについてはすぐ対応しますが、お金がかかってしまうものについては、それなりの時間がかかります。
- 中野委員 当然、対応できないような意見や苦情もあるかと思うのですが、そういった場合は何か利用者の方にご説明をするなどということはあるのですか。特にそういうことはされていないですか。
- 石井生涯学習振興課主任主事 一応、できることとできないことはしっかりと対応はされていると思います。
- 中島生涯学習振興課長 付け加えさせていただきます。市役所の中で「市長への手紙」というようなシステムもございまして、そういうところでもご意見をいただくことがございますので、市長への手紙等につきましては、きちんとお返事をさせていただいているところでございます。
- 中野委員 ありがとうございます。
- もう1点。自主事業が平成28年度からするとマイナスになっているというところがあるのですが、必須事業のほうは平成29年度以外、プラスになっていて、トータルでは収支はプラスということなのですが、自主事業の内容を見ると、自主的な講座の開設やワークショップなどといったもののようなのですが、自主事業がずっとマイナスになっているというのは、何か事情があるのでしょうか。
- 中島生涯学習振興課長 自主事業ですが、収入としましては受講料であったり、あとは部屋の利用料であったりというところの収入になります。支出の部分は当然、事業を行うことの支出になってきますので、そこでの差額的な部分でマイナスが出ているものかと考えられます。
- 中野委員 必須事業には指定管理料などが入ってくるから、それとの関係としても、やっぱり自主事業はそこだけ見るとマイナスに見えてしまう、そういうことですか。分かりました。
- 近藤会長 ほかに。
- それでは、意見がまとまったので、議題（2）に関して委員からありました意見などを答申として事務局にまとめていただきたいと思います。
- それでは。
- 金井総務課主査 それでは、議題（2）が終了いたしましたので、ここで、換気等のため、休憩に入らせていただきたいと思います。壁にあります時計で19時1

5分再開とさせていただきます。一旦休憩に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔休憩〕

- 金井総務課主査　それでは、時間となりましたので、議事の再開をお願いいたします。
- 近藤会長　それでは、次に議案（3）「指定管理者の施設管理に係る年度評価」についての「ア、千葉市科学館」について、事務局から説明をお願いいたします。
- 佐々木生涯学習部長　続きまして、千葉市科学館の評価につきましてご説明をさせていただきます。

令和元年度指定管理者年度評価シートに沿って説明をさせていただきます。

1、「公の施設の基本情報」はご覧のとおりで、成果指標と数値目標として、①の入館者数は40万人、②の利用者満足度は97%を、③の市内小学校団体利用の割合は100%を設定しております。

次に、2、「指定管理者の基本情報」についてですが、指定管理者名はコングレ・東急コミュニティー共同事業体、指定期間は平成29年4月1日から令和4年3月31日までの5年間となっております。

次に、3、「管理運営の成果・実績」ですが、数値目標の上の2つは指定管理者が市の目標を上回って設定しております。また、3月には新型コロナウイルス感染症防止のための休館を29日間実施しております。1つ目の入館者数は、目標の47万4,900人に対し39万4,974人、2つ目の利用者アンケートにおける利用者満足度は、目標の98%に対し96.1%で、市の目標の97%も下回りました。3つ目の市内小学校団体利用の割合は、3月の休館のため1校が利用できず、99.1%でございました。

成果指標とは別に、科学館の利用状況を示すその他の指標といたしましてプラネタリウム稼働率を設定しております。令和元年度の実績は27.4%で、平成30年度の30.6%から3.2ポイント下回りました。

次に、4、「収支状況」をお願いいたします。（1）必須業務収支状況についてですが、収入は合計の実績欄4億8,152万3,000円で、計画比で3,355万7,000円の減となっております。主な要因は、利用者数とミュージアムショップの売上が計画より減ったことによるものです。次に、支出は合計が実績欄4億7,652万7,000円で、計画比で3,855万3,000円の減となっております。主な要因は、委託費及び事務費・管理費の減によるものです。

（2）自主事業収支状況は、収入が204万8,000円、支出が170万9,000円となりました。（3）収支状況はご覧のとおりですが、収支は533万5,000円の黒字となっております。

次に、5、「管理運営状況の評価」の（1）管理運営による成果・実績につきましては、先ほどご説明した成果指標の目標達成状況で、全ての項目がCとなりました。



(2) 市の施設管理経費縮減への寄与についてですが、指定管理料支出が選定時の提案額に対し僅かですが下回りましたので、評価はCとなっております。

次に、管理運営の履行状況についてですが、指定管理者と市がAからEの5段階でそれぞれ評価を行っております。自己評価につきましては、4ページ下段の点線囲みにありますとおり、市の評価につきましては令和元年度モニタリングレポートに基づきまして評価をしております。

モニタリング項目ごとに算出した点数の平均値を評価の目安(年度評価シート)に当てはめて評価をしております。

評価のCは、概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていたと評価するものであり、それを上回るA、Bの評価をした箇所を中心にご説明いたします。

2、「施設管理能力」の(1)人的組織体制の充実については、職員の配置が提案書を上回る56名配置されていること、博物館学芸員有資格者も提案を大幅に上回る30名配置されていること、また、従業員の研修につきましては、毎月の定例研修以外に外部施設研修へ積極的に派遣したことなどから、市の評価はAといたしました。

次に、3、「施設の効用の発揮」の(3)施設における事業の実施については、リピーター対策において提案を下回ったものの、教育普及として実施した小学校出前教室の開催数が大幅に増加したことや、ボランティアの派遣人数の増、文化庁の公募による平成31年度地域と協働した博物館創造活動支援事業の実施などの外部機関との連携を行ったことなどから、市の評価はBといたしました。

(4)教育委員会事務局指定管理者選定評価委員会の意見を踏まえた対応についてですが、平成29年度にいただいた「人的組織体制については、管理運営の基準に定められた人員を確実に確保すること」についてですが、年次計画書の配置人員56人に対し、7月以降は56人以上を配置しております。

次に、同じく29年度にいただきました、「平日の利用者が少ないため、高齢者を対象としたプログラムを増やすなど、一年を通して稼働率を上げられるような企画を検討すること」についてですが、平日開催の講座として大人の工作教室を開催しております。令和元年度は4回開催をいたしました。

次に、昨年度いただきました、「メンバー会会員数が目標に対し半分にも満たない原因を分析し、会員の特典やメリットの周知を図ること」についてですが、メンバー会員限定イベントの開催を魅力づくりの一環として捉え、一昨年度は3回の開催だったものを、令和元年度には、限定講座に加え、実験会、館外ツアー、コンサートなどの計13回の開催に拡大をいたしました。また、広報面からも、ポスターなどによる来館者へのPRを前年よりも積極的に行うようにいたしました。結果的には昨年度を下回る会員数となりました。なお、6月現在の会員数は4,304人となっております。

次に、6、「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、まず、利用者アンケートでは565票の回答があり、科学館の全体印象としては、「とてもよい」と「まあよい」の合計が95.3%と高い満足度を示しております。施設の印象に

つきましても、「とてもよい」と「まあよい」の合計が94.2%となっております。また、成果指標の利用者満足度に用いている再来館の意思是、「ぜひ来てみたい」と「機会があれば来てみたい」の合計が96.1%となり、市の設定した成果指標の97%を0.9ポイント下回る結果となっております。

次に、(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応についてですが、「停止中、調整中の展示物が多い」との意見が寄せられておりますが、展示物の不具合が発生した際には専門のスタッフが迅速な修繕を行っております。また、「エレベーター内が暗く、階数表示が読みにくい。」「コインロッカーがコイン返却式だと知らなかった」との意見につきましては、それぞれ視認性の高い表示を行いました。

最後に、7、「総括」をお願いいたします。(1)指定管理者による自己評価についてですが、小学校への出前授業を前年度の2倍以上の回数に拡充したこと、また、外郭団体との連携では、文化庁の科学普及事業に応募し外部資金を得ながら、より充実した科学普及の在り方を企画したことなどからBとしております。

一方、市による評価についてですが、評価の目安に従いますとCとなりました。しかしながら、年間利用者数が減少したものの、秋には数学と芸術を組み合わせた今までにない企画展を開催し、好評を得たこと、千葉県科学フェスタでは台風のために中止となったものの、多くの参加者と連絡を密に取りながら混乱なく中止に誘導できたこと、また、台風や新型コロナウイルス感染症による講座中止が相次ぐ中、高い顧客満足度を維持するなど、評価すべき点も多かったのではないかと考えております。

説明は以上でございます。

○近藤会長　それでは、先ほどと同様に、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握する観点から、指定管理者の財務状況について、岡村委員のご意見をお聞きしたいと思っております。お願いいたします。

○岡村委員　それでは、株式会社コングレ第30期事業報告をお開きください。

まず、コロナの影響とオリンピック・パラリンピック開催延期の影響を、次年度への収益への影響などについて、2020年度は厳しいスタートが予想されまると簡単に触れられています。ですので、事業状況につきましては適宜、ヒアリングやモニタリングなどをされることが望まれると思っております。

それから、会計方針を含め注記表は添付されていませんので、先ほど申し上げました継続企業の前提や後発事象の有無については分かりません。貸借対照表と損益計算書を見る限り、純資産の比率が大きく、また損益計算書では利益も出ております。また、先ほど申しましたけれども、流動資産、支払いに使えるお金が、支払わなければ駄目な金額、流動負債を大きく上回っておりますので、この点からは継続性には問題ないと思われまます。

もう一つ、東急コミュニティーの計算書類がございます。まず、純資産、自分の自由にできるお金ですね、純資産が701億円、全総資産が1,250億円ですので、総資産に占める純資産、つまり自己資本の比率は56%とかなり厚いといえます。また、流動資産が流動負債を上回っております。流動性は問題なさそうに見え

ます。

それから、損益計算書ですが、経常損益が経常利益、つまり利益になっていますので、プラス92億円出ております。税金を払った後の最終の利益、残る純資産ですね、当期純利益が64億円の黒字となっております。したがって、収益性は堅調だと思います。

次に、注記表の内容を見る限り、これから述べる点を除きまして、気になるところはないと思います。

最後に、先ほど申しましたけれども、後発事象について書いてあります。重要な後発事象を読みますと、内容はコロナ関連の影響が翌年度以降あり得ますということ、しかし、この影響がどの程度かについては、この決算書作成段階では合理的に算出することは困難です、ただし、そういったことはありますと書いてあります。つまり、継続性にはこの段階では問題はないが、重要な影響があると思われましてということの注記です。ということもございましたので、最近のニュースリリースなどを確認しましたが、特段のリリースはございませんようですので、この結果、現在のところ継続性に問題はないと私は判断しました。

以上です。

- 近藤会長 ただいまの岡村委員からのお話について、ほかの委員の皆様から何かご質問はございますか。

特にないようですので、次に進みます。

続きまして、先ほどの事務局からの説明内容への質問や、指定管理者の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の対策、改善を要する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。それでは、委員の皆様。

- 中原委員 先ほどの生涯学習センターもそうですし、公民館や科学館も、令和元年度の決算では基本的にはよくやられていると思います。というのも、昨年度は台風など災害もありました。そして、ご承知のように3月から、2月ぐらいからもうコロナ騒ぎで、そういった中で多少来場者や来館はダメージを受けています。これくらいの程度で収まっているということは、逆に言えば、よくやられていると思います。だから、今回に関しては問題ないと思います。それよりも、今年度もこの調子で行くと、来年度の目標あるいは指標という部分の伸びは厳しいものがあると思います。来場者の増加を目標に掲げても厳しいと思います。この点を市としてどのように考えているのでしょうか。これは、科学館には特段関係なく、三者とも関連してくることなので、その辺のお考えがあれば、来年度に向けて、お伺いしたいまです。

多分、稼働率や来場者というのは、もうこれも減少すると思います。ましてや、市という公共の場ですから、3密は避けなければいけない、その辺のお考えというのはどうでしょうか。

- 佐々木生涯学習部長 お答えいたします。生涯学習部ですが、科学館に限らず、これからコロナがどうなるのかというのは非常に我々も注視しなければならない、これは皆さんご存じのとおりでございます。どうなるか分からない中でも、ずっと閉めていくといった考えは持っていません。コロナとうまく付き合うと言っては

変ですが、その中で3密を避けながら、いかに感染を防止しながら開いていくか。やはりこの部分については、最初からどうぞという形よりは、スモールスタートといますか、状況を見ながら、感染の状況、あるいは人の入り方もしっかりと注視しながら、これなら大丈夫、大丈夫という形で、一步一步そういった形で進んでいくのかと考えております。

- 中原委員　　したがって、今回は既存の目安や数値である程度評価していますが、来年度はそうした評価方法では無理じゃないかなと思うので、その辺の修正や変更というのは考えられているのでしょうか。
- 佐々木生涯学習部長　　これは今、委員さんがおっしゃられたように、数値ありき、あるいは入館者ありきという形では我々は、やはり発想の転換ではないですが、もちろん多くの方に来ていただきたいという気持ちは変わらないわけです。繰り返しのようになりますが、感染者を出さないような形で、できるだけ多くの方に来ていただくといった視点がやはりこれからは大切なのかと考えております。
- 中原委員　　こうした対応は将来のことなので、難しいでしょうが、よろしく願います。
- 八斗統括管理主事　　科学館担当の八斗と申します。科学館ですが、科学の新たな楽しみ方というものを考えなければならぬと思っております。現在、新たに科学を楽しむ動画コンテンツ、あるいは自宅でできる実験の動画を作り、その視聴者数の目標等を立てるといっても、今のところ考えているところでございます。
- 岡村委員　　今、先生におっしゃっていただいたとおりですが、学校や教育現場でもとんでもないことになっておりまして、どのように事業を行うかということがあります。遠隔、ヨーロッパにいる方の授業を受けたりできるとか、あるいは、昔だったら、「私は実力ないわ」といってすぐ辞めた学生が、今はリモートでみんな聞いている、プラスの効果もあるなど、いろいろなことがあると思います。一般事業会社の中にも、Withコロナに向けて、これが千載一遇のチャンスという会社もあります。逆にどうしようもなくなっているところも多いのですが。その方策をぜひ、千葉市民の方たちのために考えてほしいと思います。評価だけではなく。もう適時性、今考えることが大事だと思います。
- 中島生涯学習振興課長　　すみません、先ほどの生涯学習センターも、コロナで休館だったときから、少しずつではあるのですが、例えばZoomを使ったりですとか、そういったオンラインの講座も試行的に始めたりして、徐々に増やしているところでございます。なので、今皆様方からおっしゃられたような、少し視点を変えて、今まで対面でやっていたものをオンラインで行うといったことも、全て変えるというのではなくて、そういったことを併せて少し考えていきたいと考えているところでございます。
- 岡村委員　　市の方が考えているということですか、それとも二人三脚で。
- 中島生涯学習振興課長　　そうです、一緒に。
- 近藤会長　　ほかにございますか。
- 宮野委員　　今お話をさせていただいたことを考えながら、お話をさせていただかなければならないとは思いますが。今回お出しいただいた中の活動の傾向として、私は

音楽が専門ですので、例えば音楽の方で、プラネタリウムがあります。プラネタリウムがここのところずっといつも、NHK交響楽団を呼んできたり、あるいは、西洋のクラシカルなものの演奏家をお呼びになったり、楽器の方をお呼びになったりしていらっしやいます。それはそれで良いのですが、お金がかかるだろうと思うわけです。もっと近場にいらっしやらないのか、千葉市にもいるでしょうというようなことも考えます。なかなか探すのは大変かもしれませんが。例えば、プラネタリウムの映像の中に出てくる宇宙や天空の様子というのは、やはり見ている人は日本人として見るだろうと思うので、なぜ日本の音楽の響きをそこに入れなのかと私なりに思うわけです。例えば、そういった変更をしてみてもいいのではないかと。西洋の響きというよりも、むしろ、文化庁のクラスターというものもありますが、例えばそういう芸術とそういう科学との一体化という、音楽から見ればですね、そういった日本の音の方がずっと天空や宇宙の響きに、ひょっとしたら子どもたちの感性としては、どうだろうなというところがあったので、日本の音楽も入れてみてはどうかと思いました。

それから、楽器の科学というものがありませんでした。楽器の科学なのに、演奏家を連れてくるのでいいのですが、演奏会にしなくてもいいのではないかと었습니다。楽器の科学というのであれば、音の科学もあったほうがいい、むしろ音の科学の方が、ひょっとしたら科学的なところのお話が聞けるのではないかと었습니다。それから、科学の心や感性というものは、やはり音楽などと同じように、小さな頃からそういった視点を見つけ、そして伸ばしていかなければならないという点から、自主活動でしたでしょうか、家族で家庭教育でしたでしょうか、ありましたが、幼児、それから小学生のあたりの人材をもう少し入れていけるような活動を表に出してもいいかなと었습니다。

それから、全体的に科学館の活動も非常に定着し始め、そして拡充、広がっていったなという感想を私自身は持って、活動内容を見せていただきました。学校の科学というと、すぐ理科とかを思い浮かべますが、小学校は教科専門ではないですよ、教員が全部持ちますよね。その教員がもっと科学館を使えるようなことができないかと、そこで教材が生まれてもいいのではないかと、それをオンラインで流してみてもいいかなど、そういった少し勝手なことを考えたりしておりました。

学校とは連携はされておられるようですが、もっと学校にお知らせをし、今度こういう活動をしますからと、子どもたちが家から個人で行っている子どもたちもいると思います。そういう話題が学校で話せるような、そして、さらに友達を引っ張っていくというような、それを後押しする先生がいるというような背景や環境のようなものを、もっと作っていったらどうかと思います。これはコロナの話抜きで今、お話をさせていただいております。

実験や物を作るなど、そういうことは科学館ではかなりできますよね。学校と比べると、環境としてはどうなのでしょう。やはり科学館なりに、科学のいろいろな側面から、様々な科学の学び方ができる場所なのだと私は思います。学校ではこの実験器具はないが、あるいはこういった実験をする人はいないが、でも科学館へ行ったらあるのだしたら、先生と共に行けばいい、特に小学生はそのように私は思

います。ですので、先生と科学館というのがもっと仲良くなって、何かカリキュラム的なものを作っていくということも考えれば、オンラインなどそういうものも可能になるのではないのかと思います。ただ、学校には学校の考えがあるでしょうから、それは話し合いをしなければならぬとは思いますが、早めに話し合いをしたほうがよいかと思っております。

それと、全体的に見ると科学館はもう一押し、市の中に入り込んでいく必要があると思えました。科学館は生涯学習センターとは近いと思っていられるのでしょうか、それとも、生涯学習センターとは一緒にやらないと思われているのでしょうか、そのあたりはどうなのかと思います。あまり書いていないので、公民館の方はございましたが、その辺、市として大きな施設が2つあって、教育施設があって、それをもっと身近に連携し合えるようなプログラムを作り、そして行えば、オンライン、このコロナの状況下でも何かいいものができる。それから、1階にあるショップへ、そういった教材や実験道具など、そういったことがもしもできるのであれば、置くなど、そういったことも考えました。何か繋がりができているというような塊を、文化庁のものをやっつけたいと思いましたが、文化というと理科と離れているのかと一般人は思いますが、文化の中に理科というものを入れていくという考え方は、子どもの成長のためにはとても大切だと私は思っているのです、そういう繋がりを強く見せるというような機会に、環境にしていけるといいなと思えました。

それから、シニア科学事業というのがありましたが、シニアの方々も、科学館まで来てやるというよりも、むしろ何か講座を持てるような方もいらしたら、その方の身近な公民館でも出張講座というのもありなのかと、科学館を通して公民館に出張の講座をできると言っただけで、それで公民館は、ひょっとしたらZoomで流すかもしれませんが、そういうような出張先を広げていったらいいなと思えました。だから、市への入り込み方をあと一歩、押したらいいと思えました。

○八斗統括管理主事　　たくさんのご意見、ありがとうございます。科学館は、先ほど数字がありましたように、小学校はほぼ100%利用しているというところなのですが、もっと小学校の教員とつながりを持たないとならないというようなお話だと思っています。また、プラネタリウムについては、和の音ということで、今後指定管理者に提案をしてみたいと思います。本当にたくさんの視点をありがとうございました。

○近藤会長　　ほかには、中野先生何かありますか。

○中野委員　　メンバー会のところの話で、昨年も少しこの話が出ていたのかと思うのですが、令和元年度はいろいろな工夫をされたが、結局人数が減少したとお話で、コロナの影響ということなのですか、減ることになったという形で書かれていて、その科学館利用登録メンバー会の入会金ということで、月ごとの新しく入会する方と更新の方もここに入っているという理解でいいのですよね。

○八斗統括管理主事　　はい、そのとおりです。

○中野委員　　そうすると、人数が減ったということは、更新しなかった方がそれだけいたという理解でいいですか。

- 八斗統括管理主事　　そうですね、割合的には50%ぐらい、更新していただく方と更新していただかない方がいます。半々になってしまった。
- 中野委員　　コロナの影響でというのが、この数字の動きだけを見ると、ちょっと分かりにくいのかなと思います。いろいろメンバー会の方に対してのサービスや努力などは、例年度よりはされているのだろうなというところはすごく伝わってくるのですが、それが結果として出ていないというところが、どういうところに理由があるのかなということは、なかなか。そもそも一回一回の利用料がおそらく安いですよ、だから、何回も行くためにはメンバー会になった方がメリットがあるといった需要がどのぐらいあるのか、というところも少し考える必要があると思います。限定イベントというのとか、これだけ増やしても、やっぱり会員が増えないというのは、なぜなのかというところが、少し検討は必要なのかと思います。
- 八斗統括管理主事　　ありがとうございます。今年度になってもその課題はありまして、現在こういった中でも会員限定のZoomの講座などを行い、特典を出そうということを試みていますし、また、エムボットというものをメンバー会の会員の家に送り、家でプログラミングなんていうようなことも地道にやっているところがございます。あと、先ほど中野委員もおっしゃっていましたが、なぜだろうというところを私たちも思っているところなのですが、やはり展示品の陳腐化、老朽化というのも大きな問題ではないかということを抑えております。これについてはリニューアル等々を行い、それが最大の起爆剤になるのではないかと考えております。
- 宮野委員　　些細なことかもしれないのですが、モニタリングの項目の(4)の表記のところで、風通しのよい職場環境作りと書いておられるのですが、風通しがいいという言葉は、中でハラスメントがあるんじゃないだろうかなど、何かそんなことを想起させるので、開かれた職場環境作りとかという言い方もいいかと思った次第です。すみません、些細なことです。
- 八斗統括管理主事　　ありがとうございます。そのような表記にしたいと思います。
- 宮野委員　　今、先生方にお話していただいたのですが、メンバー会限定のものも作るのはいいと思うのですが、やはりみんなが見ている中で、メンバー会の人はいか特典があるというような、そういうものをもう少し推し進めていく中で、徐々に限定した何かを作っていく。あまり限定するものにこだわってしまうと、どちらかがぼやってしまうような気がしなくもないので、もっと全員でやるのだが、その中にメンバーの方もいて、メンバーの方はこういう特典がありますという見せ方をしたらよいと思いました。
- 近藤会長　　私はずっと、科学館に小学校の生徒が100%行っていないことを何年か通して言い続けてきて、やっと100%になってよかったと、そうしたら今回、コロナのために1校が行けなかったというのはとても残念だなと思います。その1校駄目だったところに何か手は打ったのでしょうか。
- 八斗統括管理主事　　3月4日に来る予定だったのですが、その後すぐ、ずっとコロナによって休校になってしまいましたので、特段ということはないのですが、ただ、その学校ということはないのですが、科学館がなかなか、学校が公共のバス、モノレールを使ってはなかなか来られないというような状況の中で、科学館が行っ

て、アウトリーチ的にしていこうという形で、たくさんの学校が今のところ応募してくださっています。

○近藤会長　それを見て、とても学校向けに出張したということがすごく多く書いてあったので、要するに、来ないのだったらこっちから行こうというのはすごく良いことだと思って、やっぱりこっちから仕掛けていくことをしないと人は動いてくれないと思います。特に、こういう時期だから、来てくださいと言っても来ないじゃないですか、みんな実際。逆に、行ったらうつってしまうかもしれないとか。

○宮野委員　来てもらっては困る。

○近藤会長　そうですね、こういうときこそこっち側から攻撃を仕掛けていく、そういう形に持っていき、その中で、今会員になればこういった特典がついてくるといったことをしっかり知らせていく、去年も会員が増えないということがここで問題になったのですが、では、どうしたらいいのだろうと、そういった会員向けに特別な何かをということをお話しさせてもらい、それを行っていただいたが、コロナでぼちゃってしまうと、またどんどんその部分に対する力が止まっていってしまうと思います。先ほど宮野先生がおっしゃったような和も取り入れる。この間、たまたま私、テレビを見ていて、各地で花火大会が中止になっていますが、それで過去の花火大会を取り上げて、テレビですと隅田川のものなどを中継していました。一個一個のところで行ったことはあるので、こういうときこそ各学校で科学に対する取り組みのようなものを全部吸い上げて、それを学校に向けて発信していくようなことも、特に今、リモートなどで行えるのではないかと少し思いました。

コロナのときだから下火に、実際プラネタリウムは、行って見るのが楽しみなんですけど、それができないのだったら、もうリモートで映してしまい、学校全員で見るなど、花火大会もテレビでやってくれたら、やっぱり音は聞こえないので、さびしいかなとは思いますが、でも、それを和の音楽で、太鼓なんかで盛り上げて、わっとやるような感じをテレビなんかでやっていたので、そういうところで盛り上げて、コンサートのような形でやってみるなど、何かメンバーの方だけというところだけにとどまらず、こっちから何かを仕掛けていくことは、今年はとても必要だと思いました。

でも、来館数はかなり増えていて500万人の来館があったなど、一時の下火になっていたときよりは、とても来館者が増えているということは喜ばしいことだと思っはいるのですが。

○八斗統括管理主事　分かりました。機能の陳腐化の防止ですよ。

○近藤会長　そうですね、せっかくあれだけのものがあるので、使わないのはもったいない。

ほかにはございますか。

○近藤会長　それでは、ただいま委員からありました意見などは、先ほどと同様に、答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。

○金井総務課主査　科学館の審議が終わりましたので、ここで5分ほど休憩を挟みたいと思います。壁際の時計で、ちょっと早いのですが、20時5分から再開したいと思いますので、休憩に入らせていただきます。



〔休憩〕

- 金井総務課主査　それでは、時間となりましたので、審議の再開をよろしく願います。
- 近藤会長　それでは、次に、「千葉市公民館について」に関して、事務局からご説明をお願いいたします。
- 佐々木生涯学習部長　続きまして、千葉市公民館の評価につきましてご説明させていただきます。

1、「公の施設の基本情報」は、成果指標と数値目標は①の主催講座の増加は、平成28年度の講座数である763講座から、指定期間最終年度までに300講座以上の増、②の公民館の施設稼働率は指定期間最終年度に52%以上を設定しております。

次に、2、「指定管理者の基本情報」についてですが、指定管理者名は公益財団法人千葉市教育振興財団、指定期間は平成30年4月1日から令和5年3月31日までの5年となっております。選定方法は非公募であり、その理由につきましては記載のとおりでございます。

3、「管理運営の成果・実績」の(1)成果指標に係る数値目標の達成状況ですが、1つ目の主催講座の増加数は1,085講座実施し、300講座増加の目標に対し322講座増加をしております。2つ目の公民館の施設稼働率は、目標の52.0%以上に対し46.3%となっております。

4、「収支状況」の(1)必須業務収支状況についてですが、収入は合計の実績欄12億9,887万8,000円で、計画比82万5,000円の減となっております。

次に、支出は合計の実績欄12億8,241万6,000円で、計画比1,728万7,000円の減となっております。主な要因は、当初の提案に基づき計画額を見積りしたことによるものであります。

次に、(2)自主事業収支状況についてですが、支出のみ10万4,000円となっております。朝市やパネル展などで使用した消耗品及び会場使用料などの事務費でございます。(3)収支状況はご覧のとおりで、収支は1,635万8,000円の黒字となっております。

次に、5、「管理運営状況の評価」の(1)管理運営による成果・実績につきましては、先ほどご説明した成果指標の目標達成状況で、いずれもCとなりました。

(2)市の施設管理経費縮減への寄与についてですが、指定管理料支出が選定時の提案額から0.55%の削減でしたので、評価はCとなっております。

次に、(3)管理運営の履行状況についてですが、指定管理者と市がAからEの5段階でそれぞれ評価を行っております。自己評価については5ページ下段の点線の囲みにありますとおり、また、市の評価につきましては令和元年度モニタリングレポートに基づき評価を行っております。モニタリング項目ごとに算出した点数の平均値を評価の目安(年度評価シート)に当てはめて評価をしております。

評価のCが、概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていたと評価するものであり、それを上回るBの評価をした箇所を中心に説明いたします。

2、「施設管理能力」の(1)従業員の能力向上については、社会教育主事講習に職員を積極的に派遣し、資格取得者の増につながったことから、市の評価はBといたしました。

次に、3、「施設の効用の発揮」の(1)幅広い施設利用の確保については、ツイッターやフェイスブックなどのSNSを活用した情報の提供や、生涯学習センターと連携し公民館職員研修を実施したことで、学習相談が82件から652件と大幅に増えたことから、市の評価はBといたしました。

(4)教育委員会事務局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応についてですが、平成30年度の委員会でいただきました意見でございます、「公民館利用者で構成される運営懇談会の年2回以上の開催」との提案に対し、28館は2回実施したものの、19館では1回の開催にとどまったことにつきましては、全館で年2回以上の開催を目指しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、やむなく中止した館もありましたが、書面での開催を極力行ったところでございます。

6、「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、第2、職員の対応については、満足とやや満足の合計が98.4%、第3、部屋や備品等の状況については、満足とやや満足の合計が88%となっております。また、第4、平成30年4月の指定管理開始以降の公民館についてどのように感じているかにつきましては、全体としてよくなった、またはややよくなったが53%、全体として悪くなったが1%であり、指定管理者によって利用者の満足度が向上されたものと評価しております。

次に、(2)市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応についてですが、「災害時に限らず、障害を持つ方々、高齢の方々が安心して使用できるよう、トイレの洋式化・スロープの設置など、施設の改善を進めてほしい」という意見がございましたので、予算要望を行いながら改善に努めて参ります。

最後に、7、「総括」をご覧ください。(1)指定管理者による自己評価はC、(2)市による評価は、同じくCとなりました。

市による所見としましては、5年間で300講座増加という目標に対し、関係機関と連携・協力を行い、幅広い学習ニーズに対応した講座を実施し、2年間で数値目標を達成したこと、中央図書館との連携により図書資料の充実を図ったこと、その他、保全マニュアル等に基づいて施設管理・維持管理を適切に行い、突発的な修繕に対しても迅速な対応を行っていたことなどがございます。

説明は以上でございます。

○近藤会長　　まず、指定管理者の財務状況については、先ほどご意見を伺っておりますので、割愛をさせていただきたいと思っております。

皆様には公民館の評価に関して、何かご質問がございましたらご発言いただきたいと思います。

○中原委員　　公民館も、利用者の満足度や自己評価、あるいは市の評価の点で大きい

に評価される点があると思います。ただし、少し残念なのが、目標が52%に対して46%という利用率が気になります。その原因を公民館自身が把握されているのでしょうか。確かに総合評価はCですが、B評価でもよいかないところですから。

○近藤会長　　お願いします。

○中島生涯学習振興課長　　数値目標を達成していない理由ですが、一つに公民館が今47館ございますが、施設の老朽化というところがございます。47館のうち築年数が40年以上という公民館が11館、約23%ございますが、一つはそれが原因と考えられます。また、もう一点としまして、公民館の利用者の6割が高齢者層でございまして、公民館で活動しているサークルの団体数もあるのですが、全体として減少傾向にあるというところがございます。

平成30年度に生涯学習センターの調査で公民館のアンケートを行ったのですが、公民館を利用しない理由として挙げられたもので、多いものから、「忙しくて利用する時間がないから」、「どのようなことができる施設であるか分からないから」、「地域で活動しているサークルの情報が分からないから」というのが上位3つの項目でございました。なので、公民館の情報が地域の方々に届いていないということが考えられるのではないかと考えております。

今、ご評価もいただいたのですが、稼働率を上げるために、やはり一つとしては、主催事業を今回のように大きく増やしてきているところがございます。令和元年度も1,085の事業となっております。もう一点としまして、令和元年度より個人利用も可能ということで、令和元年度はコマ数で言いますと430コマのご利用がございました。主に音楽やダンスなど、個人でもできるもので使われているところがございます。

3点目としまして、先ほど高齢者の利用が多いと申し上げましたが、子どもの居場所としまして、公民館の使っていないお部屋、空いているお部屋を開放しております。令和元年度は26館でございましたが、コロナもございまして、令和2年度に入りましては全部の館で空いているお部屋を開放するというところで、今、稼働率を向上させるためにそのような方策を立てているところでございます。あと、先ほどアンケートで公民館を知らない方も多いという結果がありましたので、PRなど、講座を魅力的にするといったことなども含めて、行っていく必要があると感じております。

○近藤会長　　今の、公民館がどこにあるか分からないというところなのですが、実は私が住んでいる近くに公民館が2つあります。1つの公民館が基本的には私の主たる公民館なのですが、仕事の関係で使う、もう一方、学区が3区に跨っているので、その関係もあるのですが、そこの公民館の入り口に、昨年度、すごくはっきりとした看板が出ました。それまでも公民館というのは、私たちはPTA活動をしたりして、公民館の中の活動だったり、運営委員会の会議に出たりなどで、個人的には知っていたのですが、一般の方だと、あれだけ目立つ大きな看板にすると分かるだろうというのはすごくありました。特に、老朽化していると、どちらかというと外見があまりきれいではないこともあると思うのですが、大きく出

た看板に、こんなにはっきり公民館って分かるものがある、今まではなかったのに、これならすごくよく分かるというのが個人的な感想です。ちなみに都賀公民館なのですが、それまでも都賀公民館と書いてあり、白い壁に木目調の板で、黒い字で大きく都賀公民館と書いて、出ています。今までよりも「ここは公民館だ」というのがすごくよく分かるようになり、知らなかった人も分かるようになったので、そういった訴え方もあるのだと思います。

- 中島生涯学習振興課長 ありがとうございます。参考にさせていただきます。
- 近藤会長 昨年、台風があったじゃないですか。今回、公民館なども避難所ということが書いてあって、老朽化していることによって、避難所としての役割というか、その部分が何か心配になっています。
- 中島生涯学習振興課長 昨年度の台風や大雨の時に公民館を避難所として開設しております。その後に、やはり古い公民館ですと雨漏りがするといったことがありましたので、そういった公民館につきましては、当然、予算が必要となるので、予算の要望をいたしまして、緊急的に必要なところは緊急的に行いますが、計画的に修繕を進めているところでございます。なので、来て雨漏りがしているところがないようにさせていただきます。
- 近藤会長 そうですね、昨年の台風、特に15号のときは、市内でもかなりのところが停電になったので、地元の公民館にも、停電で困っている方たちが公民館に訪れて、それこそ今、皆、携帯の時代じゃないですか。公民館で充電させてもらったなどと聞きました。そういうことをもっと大々的に、そういったときには公民館にどうぞみたいな感じでお知らせするというのも一つありかなと思います。子どもが小さかったりすると、公民館に図書室が併設されているところだと、子どもと行ってみたりもできますし、あと、前は中央図書館で借りた本は中央図書館に返しに行かなくてはいけなかったのが、今は公民館に返せるなど、そういった便利なこともできるので、そういうのを皆さんが知らないということがたくさんあるのではないかと思います。やっぱり見た目で分かるということも大事です。
- 中原委員 会長、水道はどうだったのですか。
- 近藤会長 それも場所によってですね。大きなマンションは、結局、停電してしまふと汲み上げができないというところがあって、たまたま隣のマンションは停電でうちは大丈夫だったのですが、本当に明暗がはっきりしてしまいました。もう何日も停電が続くということがありました。東日本大震災のときも大変な時期はあったのですが、今回の方が停電で困ったという皆さんの声は多かったです。やはりそういったときに公民館で何か、というようなことをもっと大々的に打ち出して行っていただきたいです。
- 中原委員 現在はもう異常気象じゃなく、日常気象ですから、本当に避難場所として公民館の役割も大きいのではないのでしょうか。
- 岡村委員 小学校だけじゃもう足りないでしょう。
- 近藤会長 それが一番心配だったのと、逆に言うと、やはり高齢者が多いと、自分のおうちに近いところに避難したがると思います。確かにちゃんと行ってというところはあると思うのですが、ましてコロナの時期に、またということになる

と、もっとそちらに大きく目を向けていただける方がよいと思います。去年のその台風の時、私の自宅の5分圏内の街路樹は20本、30本が倒れてしまったり、セブンイレブンの大きな看板が倒れてしまったり、そういったことも目の当たりにしたので、本当に怖い、何かあったときにそういうところに逃げて行けるようなところがないと、どうしようもないだろうなと思いました。コロナなどいろいろなことがあって、老朽化していたり、こういった被害があり、人が集まらないなどといったことは確かにあったと思うのですが、その前にやはり、その場をもっときちんとしていくというのが、まずその前に必要なことなのではないかというのを感じました。

- 中原委員 災害の観点から公民館の使命を強調し、整備してもらいたいです。
- 岡村委員 木が倒れて、千葉のゴルフ場なんかひどい目にあった。考えてみれば、毎年のように何かありますね。
- 近藤会長 市内の公民館も被害に遭っていますよね。
- 中島生涯学習振興課長 はい、そうですね。おっしゃるとおり、やっぱり公民館が雨漏りしたりですか、あと……
- 近藤会長 そのほかに、雨漏りだけでなく停電がありましたね。
- 中島生涯学習振興課長 停電があったりですか、ただ、それでも避難所ではございますので、避難をされる方もそうですし、あとは避難の物資を公民館に取りに来る方もいらっしゃると思いますので、そういう対応はさせていただいているところがございます。先ほどおっしゃられたとおり、情報の出し方という点では、これからは工夫をしていく必要があるのだと思いますので、ご意見を参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。
- 宮野委員 すみません、3の「施設の効用の発揮」の利用者意見徴収・自己モニタリングのA、「利用者意見の聴取、利用者アンケート」の実施のバツテンは何だったのですか。
- 中島生涯学習振興課長 昨年度も少しご指摘があったのですが、公民館に運営懇談会がございまして、こちらが年に2回行いますということだったのですが、平成30年度も2回までは全部の公民館で行えなくて、令和元年度につきましても2回は、目指してはいたんですが、ちょうど年度末に2回目をやる館が多いものですので、コロナの影響がありまして、やむなく中止にした館があったことからバツということにさせていただきました。
- 宮野委員 分かりました。ぜひこれは行っていただけるといいですね。コロナのおかげで本当にオンラインができますので、家にいてお話ができますよということで、皆さんにその効用を伝えていただいて、この積み重ねというのがやはり、いい公民館の活動になり、公民館の役割を果たすことができたりするような気がいたしますので、ぜひと思います。

それから、先ほどからの話のように、公民館、最も市民の身近な、社会教育と生涯教育とではまた違うかもしれませんが、やはり今は中央のところでのぎやかにぱっとやっていることよりも、自分たちの生活しているその地盤のところの活動をしつかりと固めていくということの方が良いと思っています。ですから、生涯

学習センターでも科学館でも活動されていらっしゃるようなボランティアの方とはともかく、講座を持っておられるようなシニアの方は、ぜひ今度は還元をして、公民館にも、そして社会教育を高めていただくようにした方がよい。公民館というもののイメージが、まだ市民にとって一つになっているだろうかという気もします。それはやはり魅力的なそういう、教育に見合う内容の講座を、活動をやっぱりやっていくことではないかなと思いますので、ぜひ一つ一つの、大変多い数がありますし、施設の管理も大変なのですが、一緒にそういうことも高めていって、公民館の魅力というのを市民に分かってもらうというようになっていくとよいと私は思いましたので、よろしく願います。

- 中島生涯学習振興課長      ご意見ありがとうございます。
- 岡村委員      大変すばらしい話をしていただいたのですが、つまらない話になるかもしれない、申し訳ありませんけれども、お金についてお聞きします。まず人件費ですね、支出ですが、実績、計画で8,000万円減り、それから、管理費が一方8,000万円増えましたと。間接費、これは変わりませんでしたとなっていますよね。要するに、効率的にお金を使ったかどうかというようなことも勿論知りたいですが、その理由としまして、提案に基づき計画の見積りをしたためとあって、さっぱり分からない。どう思いますか、これを見た人が分かると思いますか。これでは見た人も分からないだろうと思って、もう少し書いてほしいです。ちゃんとやっていますよと言ってほしいわけです。すみません、ちょっと言い方が悪くて。
- 中島生涯学習振興課長      本当にぱっと見て分からないような表現で、大変申し訳ございません。実績と計画のところで、提案に基づき計画の見積りをしたためと書かせていただいているのですが、本来であれば30年度の実績に基づいて令和元年度の計画を立てないといけないのですが、それが最初の提案に基づいて計画を立てていたために、この金額の差というのが出てきていることがございますので、まずはそこを書かせていただいたところでございます。

令和2年度については、この実績に基づいて計画を立ててはいるのですが、まずはそこを書かせていただきました。捕足でございますが、人件費の部分で、要はこの差の関係ですが、予算見積り、計画のときの正規の職員の給料の等級というのでしょうか、給料の等級が異なることや、雇用区分、例えば、公民館の館長を正規の職員から契約とか嘱託職員に変更したりなど、公民館主事といわれる担当の職員を正規の職員から契約職員などに変更するという事で人件費が下がったということで、この計画から実績で7,900万円という形になっているところでございます。

また、併せて管理費が実績と計画で8,200万円ほど、ほぼ同じぐらいで増えているのですが、こちらにつきましては、先ほども申し上げましたが、施設の老朽化がございますので、それに伴う修繕料や、使っている机などが古く、重いものがございますので、今、新しいものだと軽かったりするという事もございまして、物品の更新に、消耗品費の増ということで入れさせていただいたところでございます。それが主な原因となっております。

- 岡村委員 その理由が、今聞いていると、ある意味、評価できるわけです。別の上と下のカウントが違ったのですよというなら、人件費が減ったのも、こういう区分というんですか、多分見直したのだらうと思いますが、評価に使いたいわけで、そういったものが分かるように、今お聞きして大変よく分かりましたので、次回からはよろしく願います。
- 中原委員 その辺の数値をきちんと書いておくとよいと思います。そうしたらより分かりやすいと思います。
- 岡村委員 比較ですよ、数字の比較って一番大事で、そこで異常点を見つけることができるなど、要するに、もともと評価すべき基本となる計画だったら、ちゃんとしたもの、これを達成したらよくやったという、数字です、なので、そこがどっちなのかなというののはっきりしないと、よくやったかどうか分かりませんので、分かりやすくしてください。
- それから、(3)の管理運営の履行状況の表で、3の「施設の効用の発揮」ですね、その(1)、先ほどご説明いただきましたが、生涯学習相談が増えたと、ご説明を聞いて、きちんと行ったと思ったのですが、この後の資料を見ていたら、コロナについての相談が結構ありました、みたいに書いてありましたが、そうだと思います、1月から3月なので。その件数を結構含んでいるのかなと思ったのですが、実態としては、きちんと行っていますということでもいいのですか。評価できますということでもいいのですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい、生涯学習の相談ですが、公民館は身近な施設でございますので、公民館でどんなことができるのか、どういうサークルがあるのかといった相談が多いです。自分たちの身近な施設で活動するために、どうことができますかなどという相談が多いです。今おっしゃられましたコロナの関係で申し上げますと、3月3日から3月20日ぐらいまで休館している関係もございまして、コロナで公民館が開いているのか、使えるのかといった相談も入っていたものと思われまます。なので、それに丁寧に対応させていただいたところがございます。
- 岡村委員 ということは、この大きく増えたうち、幾らかはコロナということで事情があったから、そうなってしまっただけですよということで、だから評価に値しないとか、当たり前のことですよそんなこと、よくやっているよというのであれば、減にしたのですから、書いてほしいと思います。
- あと、先ほどご説明もございました、運営懇談会が19館で1回の開催に留まったということですね、書面での代理開催等を極力実施したということで、今後はまた行っていくのですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい、やはり皆様の意見を聞いて公民館の運営に生かしていなければならないと思っております。やはり会議を開き、皆様のご意見をいただいて、公民館のこれからの事業をどうするか、運営をどうするかに繋げていきたいと考えております。
- 岡村委員 あと、よくやっていると思ってこの後、見たのですが、事業報告書にさきほどの利用人数や利用率がずっと書いてありまして、例えば11月頃から松

ヶ丘公民館がずっとゼロになっていますね。それから、花見川地区のところもゼロのところがございます。これは改修か何かを行ったのですか。

- 中島生涯学習振興課長 はい、空調の改修ですとか施設の工事のため、開館していなかった、休館をさせていただいていたということです。
- 岡村委員 これはそもそも計画にはあったのですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい、計画にございました。
- 岡村委員 計画を設定する場合に、その人数というか、利用率にも入っていたわけですね、11月は休みますと。
- 中島生涯学習振興課長 はい、事前に利用者の皆様にはご案内をさせていただいておりますので。
- 岡村委員 私が言っているのは、計画と実績を見て、評価をするときに、計画に入っておらず、やむなく、きちんと対応したということであれば、人数が減っていてもどうってことないわけです。そもそも休むことを設定されていて、それで同じように休んだが人が増えなかったという、ちょっと別の結論になるというところを知りたかったのですが。
- 中島生涯学習振興課長 利用率には影響しない形で計算をしています。
- 岡村委員 影響していないのですね。承知しました。
  
- 近藤会長 去年、質問させていただいたのですが、やはり公民館を使う方は高齢者が多いじゃないですか。高齢者は、やはり和式トイレはとても使いづらいと思います。なので、ポータブルで和式から洋式になるものを置いてあげるだけでも、大分違うのではないかと思います。
- 中島生涯学習振興課長 トイレの洋式化ですが、令和元年度末で約78%が終わっています。今おっしゃられたとおり、和式の上に洋式の便器を置くようなタイプも当然ありますが、古い公民館ですと、トイレの個室が若干狭かったりもしますので、洋式の便座を置いてしまうと。
- 近藤会長 人が入れなくなるのですね。
- 中島生涯学習振興課長 入れなくなったり、バーのような、掴めるものが置けなかったり、あとトイレの扉が、内側に入るようなタイプでございますと、それを込みで改修を、例えば2つの個室を1つにするなどの改修を進めていきますので、全部がそうとはいえませんが、そういった形状も含めて、改修を計画しています。今78%と申し上げましたが、順次進めているところでございます。
- 岡村委員 以上でございます。
- 近藤会長 ほかには何か。先生、ございますか。
- 中野委員 1点だけ。お話を聞いていると高齢者の方の利用が多く、6割以上だということで、サークル活動のような形で使っているというのが多いということですが、私達の世代だと、あまり公民館を何かに使うというようなことは、こういう立場で言うのも何なのですが、あまりないというのが現実的なところで、そういった世代にも何か利用できるような発信というのを、せっかくフェイスブックとかツイッターとかを使っているのであれば、そういったものももう少し発信



してもよいかと思いました。

- 中島生涯学習振興課長 ありがとうございます。確かに魅力的な講座も含めて、数が増えてきたので、今度は講座の質ですとか、あとは、行ってみたいというのも含めてもっと検討して、工夫を重ねていきたいと思えます。ご意見ありがとうございます。
- 近藤会長 ちょっとお伺いしたいのですが、前に皆さんで見学に行った新宿公民館のように、運動ができるような広いところの場所があると、お年寄りなんかでも、体を動かしていく、特にコロナの流行により、外に出ないので運動不足になってしまうといった高齢者も多いのではないかと思います。そういった高齢者に向けて何か独自のそういったものは、公民館として何か取り組んでいたりなどはあるのですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい、公民館では1,000以上の主催事業をやらせていただいておりますが、例えばライフステージごとというのでしょうか、そういう形で講座も開いていまして、高齢者向けの講座や成人向けということで、どなたでも出られるような講座を数多く、数多くというか、やっぱり来られる方が、対象者の方がそういう方が多かったりもしますので、ニーズを聞いたりすると、そういう講座を多く開いていたりする傾向がございます。なので、その中に健康体操みたいなものがあったり、軽い運動があったり、あとは食べ物のお話なども含めて、いろいろな講座を開かせていただいているところでございます。
- 近藤会長 さっきちょっとお話の中に、サークルの数が大分減ってきているところがあるというお話をされていたかと思うのですが、それは全体的にそういう傾向ですか。
- 中島生涯学習振興課長 全体的に、どこの公民館がというわけではなくて、公民館全体のサークルの数がやはり年々減少傾向にあるというのが、すごい勢いで減っているわけではないのですが、徐々にちょっと減っているところがあります。やはり皆さん、サークルを始めて、どんどん毎年歳を取られますので、そういった影響もあると考えていて、新しい利用者、ユーザーも含めた講座やサークル活動へつなげるような支援というのも考えていけないと考えております。
- 近藤会長 子どもたち向けみたいな、そういうサークルみたいな、というのはあるのですか。
- 中島生涯学習振興課長 はい、中には子どもたち向けのサークル等もありまして、公民館の文化祭等を見に行きますと、子どもたちが中心になってダンスやバレエをしています。ないわけではないのですが、数的にはやっぱり高齢者の方の方が多いと感じております。
- 近藤会長 今それを伺ったのは、実はうちの子たちは公民館でダンスをやっていました。たまたまうちの子の同級生のお母様がジャズダンスをされていた方で、みんなで持ち上げて、そういうのをやっしまおうと言って、そこで始めたのですが、やはり卒業してしまうとそれもなくなってしまいました。自然になくなった形になったのですが、そういう何か、せっかく子どもが来て、公民館の文化祭

が華やかになったよと言われていたのですが、またそれがしぼんでしまうと、なかなかないので、そういった呼びかけはしていらっしゃるのですか。

- 中島生涯学習振興課長　そうですね、公民館でやっていると思うのですが、ある公民館では、例えば主催事業で小学生向けのお料理の講座をやって、そのお料理の講座を卒業した人が、今度はボランティアとしてお手伝いのお姉さんやお兄さんとして来るといった取組みをしている公民館もあります。そういった卒業したら終わりではなく、回っていくような仕組みというのが、やはりいろいろと工夫をしながらやっていかないといけないと思っています。卒業してしまったら終わりというのは、やはり公民館としても寂しいので、いろいろと工夫を重ねていきたいと思っております。
- 近藤会長　うちの子たちも、公民館で夏休みの間に調理実習的なものがあると、逆に希望者が多くて入れないということがあったので、せっかくだったら何度かそういった講座を行っていただき、多くの方に来ていただくような形にしていただくとありがたいと思います。
- 中島生涯学習振興課長　ありがとうございます。今いただいた意見も指定管理者へ伝えながら、工夫を重ねていきたいと思っています。ありがとうございます。
- 近藤会長　よろしく願います。

ほかには。

取りあえず、皆さんの意見が出切ったようですので、それでは、ただいま委員からありました意見などは、先ほどと同様に、答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。

私からの提案ですが、今回の審議に基づく答申について、事務局がまとめた答申案を今回の会議の議事録案と併せてお送りし、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して本委員会の答申と決定とするということにしているかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 近藤会長　では、事務局にまとめていただいた答申案について、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して、本委員会の答申として決定することといたします。

それでは、次の「その他」ですが、何かございますか。

事務局から願います。

- 山口総務課長　本日は本当にいろいろなご意見、どうもありがとうございました。今後の予定についてお知らせさせていただければと思います。第2回の会議を今年10月に予定しております。日程につきましては、また事務局で調整させていただいて、改めて委員の皆様にご案内させていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。第2回の会議ではが、生涯学習センターの指定管理予定候補者の選定についてご審議いただくことを予定しております。この審議の中では、どうしても審査の内容上、申請者であります法人の情報について扱うこととなりますが、こちらはその内容を公にすることによりまして、当該法人の権利や競争上の地位ですとか、その他正当な利益を害するおそれがあるとい

ったことが含まれると考えられますので、資料 1 - 2 としてお配りいたしておりますが、千葉県情報公開条例の第 7 条第 3 号の規定に基づきまして、会議については非公開とさせていただきたいと考えておりますので、予めお伝えさせていただきます。

○近藤会長　そのほか、委員の皆様からご意見等はございますか。

〔発言する者なし〕

○近藤会長　皆様方のご協力によりまして、本日の議事は全て終了いたしました。ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

○金井総務課主査　今日は長時間にわたるご審議、ありがとうございました。

御礼申し上げます。

以上をもちまして、令和 2 年度第 1 回千葉県教育委員会指定管理者選定評価委員会を閉会いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中、ありがとうございました。

問合せ先　千葉県教育委員会事務局教育総務部総務課

TEL 043(245)5903

FAX 043(245)5990